婆は出胎ありて後に呼てくるしからず、生兒をしばらく草座に置のみにて、いさゝか害なし、たゞ時候に相應し、嚴寒などは冷さぬやうに手當すべし、然るに貴人富家は、醫者と婆々のみをちからにして、臨月に至れば、穩婆を呼て附置もあり、產月の事なれば、少しの惱みは有べきに、早速に醫者は藥劑を用ひ、婆々はひたものひねりさすりして、却てこれが爲にそこなひやぶらるゝ者多し、田舍者貧賤の者は諸事無造作故に、自然と天理にかなひ安產也、又物種を土に植るに、萌茅至て柔なれども、堅き土を分け、砂石を除きて生ひぬ、此等を推て曉すべき事ぞかし、古人の病ありて治せざれば中醫を得るといへり、病ありてさへ醫藥を用ひざるをよしとす、況や產は病にあらず、醫者が藥を以て大便を下すやうに、藥にて生るゝものにてなし、必しも醫者婆々を力にすべからず、且生產をうむとはいふまじ、うまるゝ也、うむは人力の所爲なり、うまるゝは天地造化の妙にてうまるゝなり、鳥獸を見るべし、一產に五ッ六ッもつらね生るれども、難產なく支離もなし、是私智少しもなく、天の生々地の養の理に、自然とかなふがゆへに、無難なる也、却て人は私智の才覺にて、うまんとするによりて、天地生成の理にそむくが故に、難產有なり、此理をよく〳〵おもひめぐらすべし、穩婆を早く呼寄ざる事、愚老が考へなれど、試驗多ければ爰に記しぬ、

產後腹痛

〔倭名類聚抄三病〕產後腹　新撰要方云、婦人產後腹痛、俗云之利波良　取大豆二七枚呑之、

〔箋注倭名類聚抄二病〕按、前後訓萬倍之利倍、又訓左岐乃知、萬倍之利倍、目邊尻邊也、謂物之前邊後邊、又左岐乃知、謂時之先後、則產後腹痛、當云乃知波良、其云之利波良、俗言之誤也、今俗呼阿登波良爲得、〇中略新撰要方無攷、現在書目錄有新撰方一卷、或是、

乳病

〔牛山活套下〕乳病

婦人ノ乳病ハ、多ハ肝經ノ怒火ヨリ發スル也、乳汁不通ハ結核自成也、此結核久ク不消バ、結シテ